

## 「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 13 日 (水) 18 : 30 ~ 19 : 35  
場 所 厚南市民センター

- 1 「うべの情報 知っちょる会」について (～18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (～19:00)
- 3 質疑応答 (～19:35) ※以下、要約

【市 民】 本日の説明会に女性職員が出席されていることに驚いた。庁舎の建設に当たっては女性の視点を計画に盛り込んでいこうという趣旨があるのか。

【市】 庁舎建設に当たっては、色々な目線から考えていかなければならない。今回、たまたま庁舎建設担当の係長が女性であり、担当者は男性、課長補佐が女性だった。色々な観点から考えていくため、子育て世代の方、ご高齢の方、障害のある方などに、進捗に応じて意見を頂きなが進めていく。庁内でも検討協議会を立ち上げて、それぞれの機能ごとに協議を進めようと考えており、女性の意見もどんどん取り入れていこうと考えている。

【市 民】 港町庁舎を新庁舎建設後も当面継続利用すると書いてあるが、現在入っている教育委員会がそのまま港町庁舎に残るということか。

【市】 港町庁舎を残すことは考えているが、現段階でどの部署をどこに配置するかは決まっていない。  
新庁舎には、総合窓口の設置など、ワンストップサービスの観点からの検討が必要のため、今後、基本設計段階で皆さんに意見を頂きながら、入居部署や窓口機能のあり方を検討していきたいと考えている。

【市 民】 是非、教育委員会は本庁舎に戻してほしい。今言われたとおり、子育て関係の手続き等では、現状であれば本庁舎で手続きをした後に、港町庁舎へ行かなければならないケースもあり、不便に感じている。教育委員会が本庁にあれば、一か所で手続きが済む。

次に概算事業費について、仮設庁舎、立体駐車場について大体の金額を教えてください。また、現段階で税務署の土地・建物の購入費用はどれくらいを見込んでいるか。そして新庁舎に税務署が入ったときにそれが相殺されるかどうか教えてください。

【市】 仮庁舎の概算事業費は、現庁舎相当規模と仮定すると、14 億円程度。立体駐車場は、自走式 5 層 6 段で約 300 台を収容する場合で、5.8 億円程度と試算している。

合築に伴う税務署との費用負担については、4 月に合築に向けての基本的合意をしたばかりで、具体的な負担額・方法等は決まっていない。

考え方としては、現税務署の土地・建物を市が買い取り、新庁舎の税務署部分と対応する土地については税務署が取得する。各々の支払方法はこれからの協議であるが、一般的に言えば、相殺し不足部分をどちらかが負担するようになると思う。

金額が未定の理由は、それぞれの取得価額を鑑定評価に基づき決定するため。6 月に国と市とで協議を行う研究会を立ち上げたが、この中で検討していき、基本設計あるいは実施設計の段階で、最終的に決定すると考えている。

【市 民】 市が損をしないよう、しっかり検討してほしい。

【市民】 防災にも力を入れるということだが、浸水対策も考えているか。地下を設けないと考えてよいか。

【市】 現段階で地下ができるかどうかは決まっていない。  
基本計画は、あくまでも、どういった方針で性能や機能を決めるかということを示すものであり、整備方針や建設場所、規模、周辺の整備に関する考え方、概算事業費、スケジュールをまとめていくもの。  
今後進めていく基本設計・実施設計の中で、地下をつくった方がよいのか、つからない方がよいのか検討する。  
現庁舎の敷地は、常盤通りのある南側が高くて、北に行くにつれて低くなっていくので、南北に長い庁舎をつくれれば、地下ができる可能性もあるし、東西に長くなれば、現状と同じ形になるので、基本設計の中で検討していきたいと考えている。ただし、防災上の観点から、災害時に必要な非常用発電機などは上層階に置いたほうがよいと考えている。

【市民】 新庁舎は何階建てになるのか。現庁舎の敷地は海拔が低いが、津波が来たときに大丈夫か。

【市】 階数は、建て方によって変わるため、現段階で決まっていないが、日照権の関係もあるのであまり高層にはできないと考えている。  
一番適切な規模は、現状と同じくらいの高さと考えているが、基本設計のなかでコストなどを考慮して決めていくようになる。  
津波の問題があるのでは、ということだが、山口県が「瀬戸内海沿岸における津波浸水想定」を平成 25 年 12 月に発表しており、南海トラフ大地震等による最大クラスの津波を想定した場合でも、この地域に津波の浸水はないとの結果が出ている。  
ただし、高潮については、県が平成 18 年度に実施した高潮浸水予測によると、発生確率が 500 年に 1 回の確率で、過去の枕崎台風なみの最大規模の台風が大潮の満潮時に上陸した場合は、海面がかなり上がり、宇部空港では約 5.44m 上がるが、現庁舎敷地の地盤が約 4.7m なので、約 70cm 浸水する可能性がある。そのため、建物の作り方などを考慮したり、浸水した場合に備えて、電気系統の設備や防災拠点を上階に設置することなどを基本設計の中で考えていきたい。

【市民】 庁舎の利用の仕方は、大人を対象に捉えられがちだと思うが、これからは、18 歳未満の子供たちにも庁舎を利用してもらおう時代になってくる。  
行政に関心を持ってもらう意味でも、子供たちの利用も視野に入れた、訪れやすい・利用しやすいスペース等の設計をしていく必要があると思う。  
基本計画（素案）を見ると、当然、高齢者の問題は視野に入っており、また乳幼児を抱えた保護者の方の利用も前提に入っていると思うが、それ以外の世代の利用も視野に入れる必要がある。  
また保健センターは今の場所のままで新庁舎に入らないのか。

【市】 18 歳未満の若者が利用しやすい庁舎については、市民活動支援機能を考えていく中で、若者が交流できるようなものを今後の基本設計の中で検討したい。  
若い人の意見を伺うような場も設けていきたいと考えている。  
保健センターについては、今のところ新庁舎に入れる予定はない。ただし、今後、人口減少などにより職員が減少した場合に備えて、レイアウトを容易に変更できるようにしておこうと考えているので、施設の統廃合を進める中で、将来保健センターを統合する可能性もあり得るが、この基本計画のなかでは考えていない。

【市民】 概算事業費 108.1 億円、さらに仮設庁舎や立体駐車場となるとかなりの建設費だが、この規模の事業になると地元の業者ではできないのか。  
地方創生の観点から考えると、地元の業者を最大限使っていくような形であってほしい。  
これからの庁舎は、大きく華美で目立つ建物ではなく、耐震性などの必要な機能は備えつつ、無駄のないものをきちんとつくっていく時代だと思う。そうすると地元の業者では難しいのかもしれないが、これだけの大きな事業なので、できるだけ地元にお金が落ちていく形の進め方が望ましいと思う。地元業者のみで行うというのは、難しいのか。

【市】 市庁舎は、大前提として防災拠点機能を持たないといけないので、構造的には耐震安全性が一番高い、通常の耐震基準の構造計算の 1.5 倍の基準を考えている。そのために、建物を頑丈にする、あるいは免震装置や制震装置を使って建物を軽くするなどの方法があるが、それを基本設計の段階で考えていく。

設計者選定については、設計会社が提案するものをそのまま設計案とするコンペティション方式、設計者を選ぶプロポーザル方式、価格で決定する競争入札方式がある。基本計画（素案）では、3案を検討した結果、仕様を考えてその仕様に合わせて設計してもらおうプロポーザル方式が妥当としている。

規模の大きな施設の設計なので、大手の受注が考えられるが、地元企業にも参加してもらおうため、決定ではないが大手と地元設計事務所との J V 方式が一番いいのではないかと考えている。そうすることで、地元企業にも大手のノウハウが伝授されるので、そこで力もつけてもらうこともできる。

建設についても、従来方式とデザインビルド方式や P F I 方式があるが、基本計画（素案）では、従来方式がよいと判断している。こちらについても 100 億円を超えるような事業なので、地元企業だけでは難しいと考えており、決定事項ではないが大手と地元企業とで J V を組んだらよいのではないかと考えている。

【市民】 「エネルギー利用のスマート化」というのは、市役所自前の発電装置を保有して行うということか、地域単位の構想としてのスマート化なのか。

【市】 基本計画（素案）の中にも「施設管理・運用の考え方」として「市役所のスマートビル化」を記載している。

エネルギー管理については、宇部市スマートコミュニティ構想(H26.3)のなかでも、市役所をスマートビル化していくこととし、創エネ・省エネ対応することを考えている。

運用面でもビル・エネルギー・マネジメントシステム (BEMS) で庁舎のエネルギーを一元管理すること等の検討が必要と考えており、基本設計の中で、どういったスマートビル化が一番いいのかを検討していく。

また、地区全体を管理する方式がよいのか、ビル単体で行うのかについても総合的に考えていく。

にぎわいエコまち計画でも、市庁舎を始めとするビルのスマート化を謳っているので、エコなビルを目指していく。

【市民】 市役所だけで発電装置を保有し、エネルギーの効率化を図るのは、無駄があるのでは。

「エネルギー利用のスマート化」とは、例えば、まちなかの暖房や冷房などにまで発展していくものなのか。

【市】 今の段階で、こうやりますというのはなかなか言えない。宇部市としてはスマートコミュニティ構想を庁舎建設とを並行して考え、今の段階と数年後ではエネルギーの考え方がかなり変わっていると思うので、その時に最適なものを取り入れていきたいと考えている。

【市民】 予算は、どの程度確保しているのか。

【市】 平成 9 年度から庁舎建設基金を積み立てており、平成 28 年度末見込が約 37.6 億円。今後も庁舎建設に向けて基金を更に積み上げていきたいと考えており、残りは市債となる。残額に充てる予定の市債については、25 年で返すような計画を考えている。

【市民】 他市に笑われないようなものを作ってください。